（政務活動費用）　　（様式１）

出　張　報　告　書

令和６年５月７日

釧路市議会議長　畑中　優周　様

会 派 名　創志会

代表者名　　松尾　和仁　　印

次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受　命　者	松尾　和仁、大越　拓也、五十嵐　誠、藤井　若菜
出　張　先	高知市、高松市、松茂町
期　　間	令和６年４月22日～令和６年４月24日（３日間）
用　　務	防災施策について（高知市） スマートシティたかまつについて（高松市） 松茂交流拠点施設マツシゲートについて（松茂町）
調査（研修）結果等の概要	別紙参照
備　　考	

注）１　資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。

２　調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

視察報告書

視察日程　　令和６年４月２２日(月)　９:３０～１１:００
視察地　　高知県高知市
視察者　　創志会　　松尾・大越・五十嵐（文責）・藤井
視察項目　　防災について

高知市は、四国南部のほぼ中央に位置し、市の北方には急峻な四国山地があり、その支峰である北山に源を発する鏡川の下流域を中心に都市が形成されている。

平成10年4月には四国で最初の中核都市に移行、平成17年1月に鏡村・土佐山村、平成20年1月には春野町と合併し、中山間地域、田園地域、都市部のバランスの取れた人口約34万人の中核都市です。

高知市は中でも防災対策に力を入れており、喫緊の課題である南海トラフ地震に対する災害時の被害を最小化する減災対策、災害に強く安全に暮らせるまちづくりが求められている。

過去の南海地震をみてみると前回の発生から78年、東海地震は前回の発生から160年以上経過をしていることもあり、今後30年以内に発生する確率が70%～80%と言われている。

高知市の防災対策事業として、住宅耐震化推進事業と家具等転倒防止対策事業が行われている。住宅耐震化推進事業は平成15年度から開始され、現在では旧耐震基準で建築された住宅の耐震化対策として120万円を上限として改修費を補助している。住宅の耐震化率を令和7年度には93%以上になるよう住宅の耐震化の推進化を図っている。

また、家具等転倒防止対策事業として、平成24年度から現在まで約1200件以上取り組みが行われている。

また、津波避難施設として、9か所の避難タワー、3か所の避難センター（避難所を兼ねたもの）を備えている。収容人数は5231人である。

令和2年度から大規模災害時における災害関連死ゼロを目指し、津波浸水想定区域外の主要な指定避難所（39施設）へ、くみ取り式マンホールトイレ、下水道接続式マンホールトイレの整備を行っている。

大規模災害に備えて地域の防災力工場の為、防災人づくり塾を開講。6月～8月までの週1回計8回の講座を各専門分野の講師による防災講座を開催。定数160人で令和5年度までに2949人が修了している。

また、防災士の養成として平成25年度から防災士資格取得事業をはじめている。通常2日間の研修を受講し防災士の資格を取得するが、高知市で講師を招き、試験に合格すれば登録料と受験料だけで防災士の資格を取得することが出来る。官民一体となった取り組みに現在まで1163名の方が防災士の資格を取得している。釧路市においても災害に強いまちづくりを行うためにも、地震から命を守る対策、津波から命を守る対策、守った命をつなぐ対策、地域の防災力を高める対策が釧路市でもまだまだ必要と感じた次第である。

視察報告書

1. 視察日程　　令和 6 年 4 月 23 日(火) 15:00～16:30
2. 視察地　　香川県高松市
3. 視察者　　創志会　　松尾（文責）・大越・五十嵐・藤井
4. 視察項目　　スマートシティたかまつについて
5. 視察目的

高松市では、平成 29 年 4 月に設置した情報政策課 ICT 推進課(現デジタル戦略課)を中心として、IoT などを活用し、複数データーの収集・分析などを行う共通プラットフォームを構築し、データー収集・分析などを行い、市民全員がデジタル技術を活用でき、社会全体の DX を進めることで、誰もが、どこからでも利便性を享受できる「スマートシティたかまつ」の推進に取組んでいる。

本市でも DX を推進し、市民サービスの利便性向上などの実現のため、高松市の各分野における取組について研修し、今後の事業推進の参考とする。

6. 取り組みの経緯

(1)平成 28 年 4 月の伊勢志摩サミットの時に、情報通信大臣会合が高松市で行われ、これを機に「スマートシティ」の取組に本格的に手を挙げた。

(2)平成 29 年に総務省が立ち上げた「データー利活用型スマートシティ推進事業」の補助金の採択を受け、「スマートシティたかまつ推進協議会」を設立した。

(3)平成 30 年から IoT 共通プラットフォーム運用開始

(4)令和 2 年にスーパーシティ構想検討開始

(5)令和 4 年に「スマートシティたかまつ推進プラン(新)を策定、同年「デジタル田園都市国家構想推進交付金 TYPE3 採択

7. プロジェクトの理念

◎誰もが、どこからでも利便性を享受できる「スマートシティたかまつ」の実現

(1)多様な主体の出会いと協働を促進する仕組みづくり

(2)誰もが、デジタル社会の恩恵を享受できる環境整備

(3)市民ニーズに応じた行政サービスの効率的な提供

(4)持続可能で魅力的なまちづくり

◎高松市～「デジタル改革宣言(4 本柱)

(1)できることからはじめよう(特にこれを合言葉に小さなことからでも始める)

(2)じっくりみんなで話そう

(3)たしかなデーターを見よう

(4)ルールから変えていこう

8. 各分野における取組例

◎防災分野

日本の中では、災害の発生が比較的少なく、市職員が災害対応の経験を積んでいなく、悪条件が重なると、都市機能と海の近さが仇となり、広範囲に被害が発生する危険性がある

(1)水位・潮位センサー

高松市水防計画指定水位・潮位観測地点より選定した河川、水路に設置

(2)想定図等(地図情報)

土砂災害警戒区域図等の地図情報とセンサー等から得られる情報を組み合わせたデーター利活用を実施

(3)県防災情報との連携

「かがわ防災 Web ポータル」より水位情報やダム情報を入手し、県防災情報と地域情報を組み合わせたデーター利活用を実施

(4)スマートメーター

電力使用量から避難所の開設状況、停電状況を判断

(5)高松市ダッシュボード

収集した情報(水位・潮位・冠水状況・避難所情報等)を地図上にアイコン表示し、クリックで詳細情報(カメラ画像・測定値等)が表示される

(6)たかまつマイセーフティマップ(市民向け)

災害リスクと防災施設・サービスが見える防災アプリ

高松市 IoT 共通プラットフォームに収集しているデーター、市オープンデーター、デジタル化したハザードマップ・道路のデーターを利用

◎観光分野

レンタルサイクルの利用動態から特に外国人観光客の動態を分析し、施策展開に活用

(1)GPS ロガーによるデーターの蓄積

起終点の把握、利用経路、行動範囲の把握、移動時刻、滞在時間の把握

(2)利用者登録

利用者属性、目的等の把握

利用者登録により、利用者属性や利用目的を把握

(3)データーの可視化

出発地、目的地、移動経路、滞在時間の可視化

(4)観光・MISE の振興

外国人観光客の訪問先を把握し、多言語化対応および新たな観光資源を発掘

(5)ダッシュボード画面表示

利用者の出身内訳は韓国(42%)、中国(23%)、台湾(13%)、香港(13%)等

韓国・中国はショッピングの目的が多い、欧米・香港は周遊範囲が広い
台湾は周遊範囲が狭い等、一定の傾向が観測できる

9. スマートシティたかまつ推進協議会

2017年10月に、産学民官の多様な主体との連携を通じて、IoT共通プラットフォームを活用した、官民データーの収集・分析による地域課題の解決を目指し、スマートシティたかまつ推進協議会を設立。

協議会内に各分野にワーキンググループを組成し、産学民官が連携して、課題の整理から始め、実証事業を重ねながら、社会実装を目指した取組を進めている。

また、市民参加型のスマートシティを目指し、協議会として、市民向けのシンポジウムや人材育成講座の開催など、普及啓発活動を実施している。

10. 所感

近年のICT技術の進歩は、スマートフォンの普及とともに急速に進展しており、あらゆる場面でデジタル技術が必要不可欠なものとなっている。

国は、デジタル庁の設置を見据え、様々なデジタル関連計画を策定し、自治体にもデジタル技術を活用した住民の利便性の向上や業務効率などを推進するよう求めている。

釧路市においても、ICTの普及により、市民の生活があらゆる面でより良い方向に変化するよう、釧路市のデジタル・トラスフォーメーション(DX)を推進するため、「釧路市デジタル・トラスフォーメーション推進方針」を策定し、具体的な施策を示す実行計画も併せて策定した。

高松市では、先進かつ積極的なデジタル技術を活用して、防災分野・観光戦略・健康増進・交通事故防止など様々な分野で実証事業を行い、取組を進めている。
産学民官が連携してDXを地域全体に浸透させることによって、安心・安全の確保や魅力的で暮らしやすいまちづくりの向上等につながることを感じた。

個人情報保護の観点や、セキュリティ対応、システム整備や予算など課題も多いが、本市においても先進的な自治体を参考に積極的な取組を進めることが重要と考える。

以上

(文責:松尾和仁)

2024年4月24日(水)　13：00～15：00
徳島県松茂町「松茂交流拠点施設マツシゲートについて」

【人口】　14707人（2022年12月29日現在）
【世帯数】6890世帯　（同上）
【面積】　14.34k㎡
【対応者】町長　吉田直人、副町長　富士雅章、議長　川田修、副議長　板東絹代、チャレンジ課長　袴田智香、総務部長　松下師一、総務部課長　入口直幸、事務局長　多田雄一
【出席者】松尾和仁、大越拓也、五十嵐誠、藤井若菜（筆記者）

（敬称略）

■導入
2023年4月　松茂町と友好都市協定締結
・両市町とも株式会社大塚製薬工場が立地している縁
・2022年度から、松茂町の中学生の研修派遣事業を釧路市で実施。
・2022年「くしろ大漁どんぱく」と「くしろ物産まつり」に松茂町が出店。特産品
　　‣サツマイモ、レンコン、梨商品を販売。
・2022年松茂町の「まつしげカレーフェスタ」でつぶカレーを販売

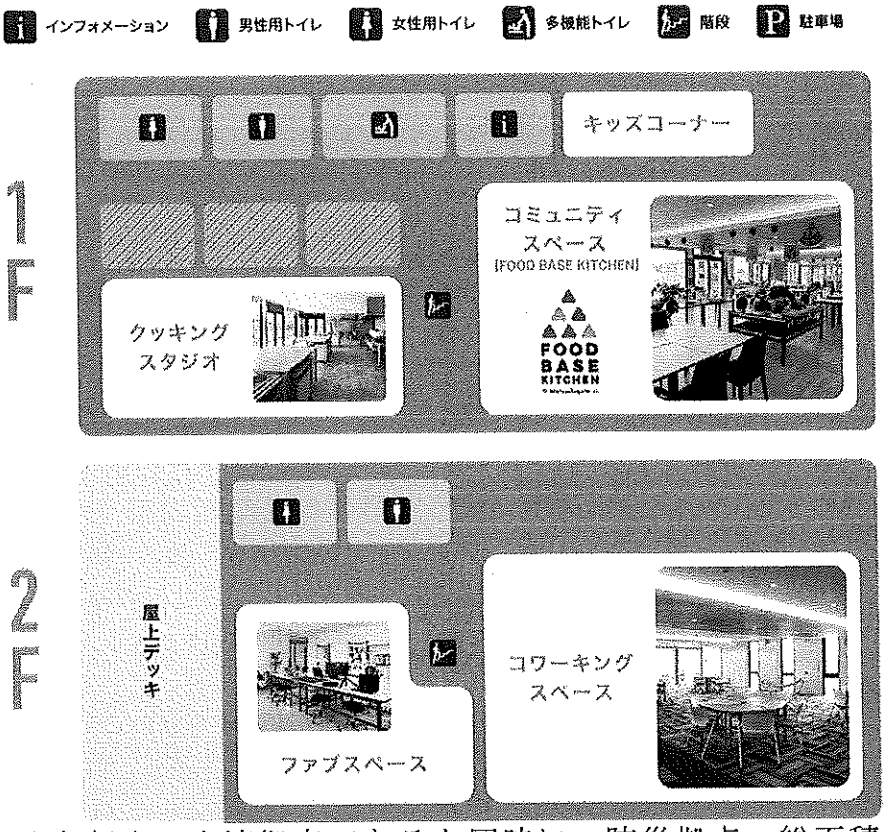
2023年5月31日（水）～6月4日（日）の5日間
　本格的な夏のレジャーシーズンに向けて、"キャンプ"をテーマに北海道釧路市の魅力を体感する『KUSHIRO NATURE CAMP 2023』を、八芳園が運営する東京・白金台「MuSuBu」にて開催。7月には同イベントをマツシゲートでも開催。
〃　　10月　カレーフェスタで炉端カレーを出展
2024年2月
　八芳園から井上社長とフランス料理を担当する滝口泰輔シェフら5人が来釧。ブリを使った調理の実習と試食をする「ブリ料理の試食交流会」を開催。

■松茂町

町の端から端まで車で 10 分ほどの松茂町。面積のほとんどを海上自衛隊の航空基地と赤松化成工業、サンスター、大塚製薬、共栄造機といった工場が占めており、財政は豊か。県庁所在地である徳島市の駅までは車で 20 分と、ベットタウンとして利用する住民が多い。
来歴は三角州で米づくりに向かない土地柄。湿地でも作りやすいレンコンを特産としてきた。しかし近年は単価の高い鳴門金時を栽培。かつてはうなぎの養殖も盛んだったが、離農が進み、現在ウナギ農家はいない。
明治の大合併では貧しい土地柄のため声がかからず、昭和の大合併では財政豊かで合併の必要がなかった。現在人口は横ばいながら、ゆるやかな減少を阻止するため、目に止まる施策で著名化を図る。
・マツシゲート内にオープンした、八芳園がプロデュースする食を通じた交流拠点「FOOD BASE KITCHEN」へ現地の女性社員を採用。
・マツシゲートは防災拠点でもあるので、周りに高い防護壁があり、ここに地元のアーティストにオシャレな壁画アートを描いていただいていて、映えスポット
・カフェメニューも思わず写真を撮りたくなるような“映えメニュー”
・高齢者の「孤食」問題に対し、散歩やカフェでスタッフと話すことで防止できる
・中学生も宿題をしているので健康的なおやつを開発中
・地元の特産物を使ったメニュー開発や、図書館の古い本を綺麗にして自由に読める本棚を設置したり、賞味期限が近い未開封の物を入れて物々交換ができる冷蔵庫を置いたり、フードロスを防ぐといった取り組みも考案中。
・Free Wi-fi（同時接続 100 人）
・SDGs の先進県として国内外から大注目の徳島県の中で、玄関口ともいえる松茂町。
・「まつしげ SDGs 宣言」を行った松茂町は、「マツシゲート」にて特産品”藍”の栽培や地産地消の商品開発、SDGs にまつわるセッションやワークショップの開催など、地方創生に繋がる SDGs の様々な取り組みにチャレンジしています。

視察項目の担当職員から概要をご説明いただいた。主な内容は下記のとおり。

■マツシゲート
【概要】
https://matsushigate.or.jp/



◎FOOD BASE KITCHEN

全国各地の食材で作るカフェメニューや、食を通じた交流の活発化を目指し、地域とのコラボイベントを随時開催。地元の方に教わるサステナブルな木の食器作り体験や、お子様と楽しめるワークショップも多数ご用意しています。

◎クッキングスタジオ

専門の調理器具を用いて、様々な料理づくりを行えます。

◎ファブスペース

3Dプリンター、プログラミング、ワークショップを通じ、見て・学んで、自分だけのオリジナル作品等を「作る」楽しみを体験できます。

◎コワーキングスペース

様々な人が共同で使用するオフィススペースです。インターネット回線も整っているので、様々な職種の方にご利用いただけます。

地方創生の交流拠点であると同時に、防災拠点。総面積 16922 ㎡。レストランやコワーキングスペースを完備し、野外でイベントなどを行う交流拠点施設であると同時に防災機能もあわせ持ち、災害時には復興拠点としての役割を担うという。周囲には、想定される津波の高さを上回る３M の防水壁が巡らされ、災害時には中央の芝広場が仮設住宅の建設用地として活用される。キッチンスタジオには大型の回転釜や炊飯器があり、炊き出しにも対応が可能。屋外トイレは断水時にも使用できる設計になっている。

【経緯】

2019 年	基本設計および実施設計
2020 年1 月	地方創生拠点整備交付金事前相談および有識者審査
〃　　3 月	〃　　交付申請および交付決定
〃　　4 月	整備工事入札
	2020 年松茂町議会第１回臨時会にて請負契約に係わる議会議決
2021 年3 月	整備工事竣工
〃　　5 月	供用開始
2022 年6 月	（株）八芳園と包括連携協定を締結
〃　　10 月	カレーフェスタ初開催
2023 年 1 月	お魚フェア＆釧路市フェア初開催
〃　　4 月	釧路市と友好都市協定締結

【建設費内訳】

項目	金額	国庫補助金	地方債	その他	一般財源	備考
設計業務	57530	0	0	37400	20130	市町村振興協会貸付金
交流拠点整備工事	819994	345050	345000	0	129944	地方創生拠点整備交付金、一般補助施設等整備事業債
津波防護壁	325158	0	283700	0	41458	緊急防災・減

整備工事						災事業債
施工管理業務	18700	0	0	0	18700	
合計	1221382	345050	628700	37400	210232	

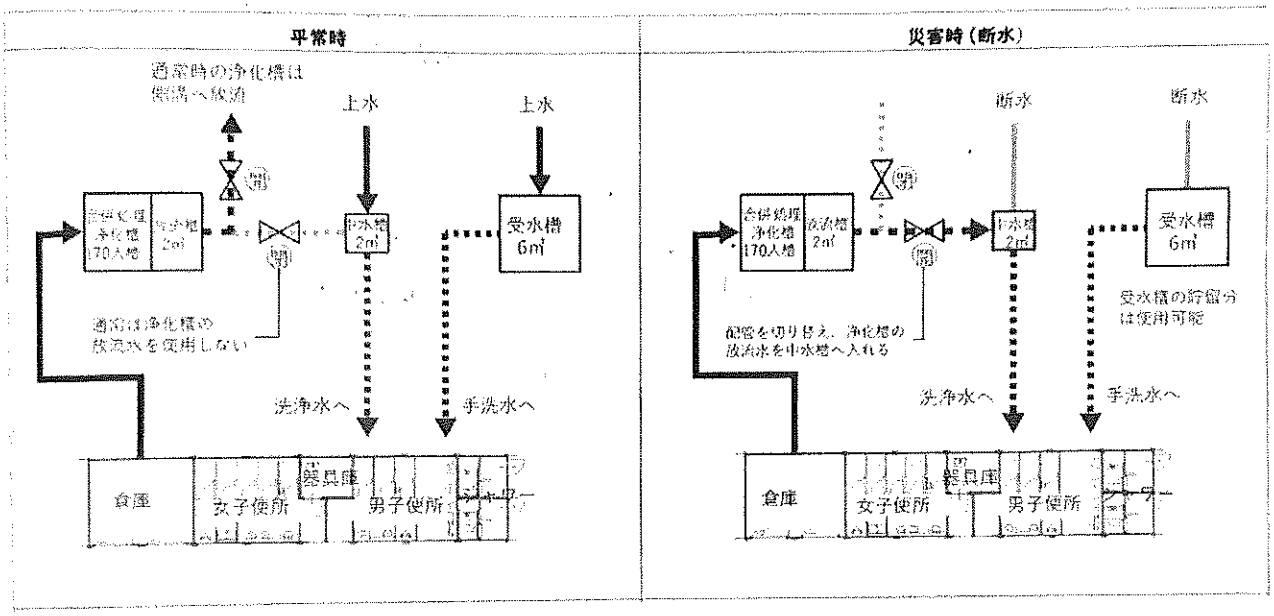
（単位：千円）

【ランニングコスト】
・施設運営費　　およそ 5000 万円（八芳園の委託運営費含む）
・イベント運営費　　およそ 3000 万円
・財政指数　　0.8（国からの防災基金あり）

■交流拠点として
・年間来場者数：74526 人（2023 年度）
・マツシゲートマルシェ（月 1 回、第 2 日曜開催）徳島の特産品イベント
来場者数：14879 人、店舗数：332 店
・(株)八芳園がカフェスペースを運営
　‣2 週間ごと：全国物産展の開催および期間限定メニュー提供
・コワーキングスペース
　‣使用料：110 円（1 時間）
　‣利用者数：844 人（2023 年度）※月最大 70 人利用
・ファブスペース：342 人（2023 年度）※月最大 30 人利用
・特産の藍に関する取り組み
　‣月 1 回のマルシェでワークショップ開催
　‣職員および八芳園スタッフで藍栽培
　‣藍の特産品販売
　‣はちみつを採取して藍色エール（クラフトビール）に使用
・阿波番茶オーナー制度
・生ゴミ処理機キエーロのワークショップ開催
・SDGｓに関する料理教室開催
・SDGｓに係わる映画上映
・高知竹林を活用してまつしげ竹灯り開催

■防災拠点として
徳島県最大クラス（L２津波）を想定。
・芝生面積 6500 ㎡
　‣応急仮設住宅 65 戸建設可能※徳島基準
　‣建設時の試算では、２～３名の２DK 最大 96 戸可能
　‣約 2000 人（１人あたり 3.3 ㎡）入場可能
・キッチン提供可能数
　‣ガス炊飯器：１回おにぎり 532 個
　‣ガス回転釜：１回汁物 640 人分
・津波発生時の緊急避難場所ではない
・耐浪性はクリア
・津波防護壁は３M
　コンクリートを巻き込んだ鋼矢板を非液状化層まで根入れしている。また坂路を設けることで緊急車両や重機進入動線を確保。
・災害時中水利用
　上水が断水した場合、浄化槽の処理水を屋外トイレに洗浄水として循環する

経路を確保。



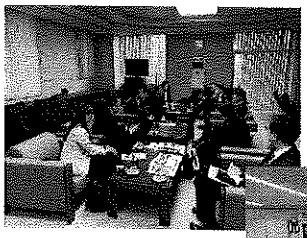
・非常電源

60kVA の非常用発電装置を設置。100%負荷時で約 65 時間稼働可能。

■まとめ

財政豊かな町なので、もともと町役場の駐車場を立体化（２階以上に公用車を設置）、津波避難タワーの建設で特定避難困難地域も解消している。マツシゲートの本来の目的は、関係人口を増やす交流拠点。複合的な使い方をした方が効率的ということで防災や SDGｓの観点を独自に盛り込んで活用している。補助金は国からの防災関連のみ。県からの補助金は条件が狭まるため使いにくいとの町長の意見。松茂町の人口は横ばいだが、国全体の人口減少の影響から松茂町を目にとまらせる施策をいろいろと始めているという。

年間運営費５千万に含まれる八芳園への委託費は、予想以上の効果を生んでいるとのことでマツシゲート全体の運営も外部委託する案も出ているとか。民間は始めるのも止めるのもスピード感が違うとのこと。松茂町の仲介もあって八芳園と釧路市の交流もスタートしたため、どうにかコラボで盛り上がりたいところ。

個人的にファブスペースの使い方が印象的だった。３D プリンターやレーザーカッター、デジタル刺繍マシンなどが施設利用料 110 円＋機械利用料 110～1650 円で利用可能。主婦がミンネなどのハンドメイド作品販売に利用することも多く、町はそれを歓迎。いずれは機械を購入して会社を立ち上げるくらいのスタートアップにも利用してほしいと促進している。釧路は鳥取技術センターがあるが、専門性が高すぎて説明が難しい。マツシゲートに比べ、一般が利用するのはハードルが高すぎるよ

うに感じる。